

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との 関連について

The Relationship between Decision Making Regarding Junior College Entrance and Ego-identity Status

芳 田 茂 樹
Shigeki YOSHIDA

I. はじめに

Erikson, E. H. (1959) が、青年期は自我同一性の確立される時期であると定義づけたように、人間の発達の段階において青年期は、心身共に著しく発達する時期である。特に人格の形成においては、児童期までに確立した人格を試行錯誤を繰り返しながら再構成しなおす時期、すなわち自我同一性を形成する時期である。その青年期にあって、大学への進学というのは、人生における重要な意志決定のひとつである。

従来から指摘されているように、大学に進学を決定する過程には2つの段階があり、はじめは一般的な他の進路を含む大きな範疇の中より、大学を選択決定する段階で、次に大学進学を決定した後に特定の大学・学部を選択する段階であると言われている。

洲上(1984a)は、高校3年生を対象として、一般的な大学進学志望動機の因子分析を行った結果、「大学の本来的機能」「家族への配慮と規範機能」「モラトリアム機能」「大学の副次的機能」「大学の経済価値機能」の5因子を抽出し、生徒の一般的な大学志望動機形成に人的影響源、つまり両親、教師や友人等が関連していると報告している。また、洲上(1984b)は、特定の大学・学部決定の動機に関連した項目から4因子すなわち「志望大学の内容の充実」「志望大学の経済的・地理的条件」「自己実現への適合」「入学の可能性」を見出し、さきの5因子との関連を検討し、大学を学問探究や人格陶冶の場として進学を志望している生徒は、自分の将来や適性を考慮しながら大学を選択していると指摘した。

三川(1985)は、これらの研究が、男女こみにした高校3年生を対象として9月以前に調査されたものであるため、個人による志望大学の相違や、それ以後の志望大学の変更などの条件は考慮されておらず、特定の大学・学部の選択決定の動機を真に反映したものであるかどうかには疑問の余地があると指摘し、調査対象を1つの大学に限定し、合格直後に大学進学決定の動機を質問するという形で調査を行った。その結果、男女別に因子分析を行い、それぞれ4因子を抽出している。特に女子においては、「大学の価値と自分の適性」「合格の可能性」「経済的条件」「通学の条件」の4因子を見出し、中でも「通学の条件」は、女子特

有の因子であると指摘している。

そこで本研究では、大学への進学、特に短期大学への進学における決定要因をこれら上記の研究を踏まえ、さまざまな情報が溢れているこの情報化・マスメディア社会において、特定の短期大学に進学を決定するにあたってどのような条件を重視しているのかを幾つかの側面から検討する。併せて、自我同一性の形成の時期である青年期において、自我同一性地位が短期大学進学決定要因にどのように関連しているのかを考察することで短期大学進学への現状を検討したい。

Ⅱ. 方 法

1. 調査用紙

本研究で使用した尺度は、次の2つである。

(1) 短期大学進学決定要因の測定

短期大学進学決定要因の測定には、三川（1985）が作成した大学進学決定要因15項目に、筆者が独自に短期大学を決定するうえで要因となるであろうと仮定した項目を5項目加え、

表1 大学進学決定要因項目

1. 校 風 や 伝 統
2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ
3. 学 問 の 水 準 の 高 さ
4. 就 職 の 有 利 さ
5. 通 学 の 便 利 さ
6. 家 庭 の 経 済 的 理 由
7. 合 格 の 見 込 み
8. 自 分 の 適 性
9. 教 師 の 助 言
10. 父 母 の 希 望
11. 互いに励みになるよい友がいる
12. 学 校 の 雰 囲 気
13. 将来の志望職業との一致度
14. 学費・奨学金などの条件
15. 自分の学力水準にあっている
16. 周囲に進学する友人が多くいる
17. 学科の内容に興味がある
18. 校舎の美しさなどの外観
19. 雑誌などでよく紹介される
20. 学園生活を送るのに適した街にある

計20項目から構成された尺度を使用した（表1）。被検者には、「短期大学を選択決定する際に、次の条件をどのくらい重視したか」を尋ね、それを「① 非常に重視した」「② やや重視した」「③ 普通」「④ あまり重視しなかった」「⑤ 無視した」の5段階で自己評定させた。これらの項目を重視する方向から4点～0点を与え、得点化を行った。

短期大学進学決定要因の鍵項目として、次の5項目を取り上げた。（ア）入学までの経路（①現役入学か又は②浪人の経験があるのか）（イ）進路決定について（①自分の意志で決定したのか又は②周囲の意見に従ったのか）（ウ）短期大学の決定について（①四年制大学志望だったが結果的に短期大学になったのか又は

②最初から短期大学志望だったのか）（エ）合格した学科への満足度について（①満足か又は②不満か）（オ）卒業後の進路について（①就職するのか又は②進学するのか）。以上これら5つの側面から短期大学決定要因20項目の検討を行う。

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

(2) 自我同一性地位の測定

表2 自我同一性地位尺度（＊は逆転項目を示す）

A. 職業領域

探索 (Exploration)

1. 私は、自分がどんな職業につきたいのか、あれこれと悩んだことがある
2. 私は、将来の職業について、いろいろな面から検討してみたことがある
3. 私は、将来の職業について、誰かに相談したことがある
4. ＊私は、将来の職業について、今まで真剣に考える機会がなかったと思う
5. 私は、将来の職業について、自分の適性や能力を考えてみたことがある
6. 私は、将来の職業について、いろいろと考えてみたことがある
7. 私は、自分がどんな職業に向いているのか、あれこれと考えてみたことがある
8. ＊私は、将来の職業について、今はまだ考えたくない

傾倒 (Commitment)

1. ＊私は、自分が本当にやってみたい仕事は何なのか、まだよくわからない
2. 私は、自分がどんな職業につくか、すでに決心している
3. 私は、希望する職業につくために、資格を取ったり、専門的な勉強をしている
4. ＊私は、現在のところ、こういう仕事をしたいというものは考えていない
5. ＊私は、自分の職業を一つに決めてしまうのは、何となく不安である
6. ＊私は、一つの仕事に、本当に打ち込んでいけるかどうか心配である
7. 私は、将来つきたいと思っている仕事の内容を、よく理解しているつもりである
8. ＊私は、どんな職業につくかは、なりゆきにまかせるのがよいと思う

B. 価値領域

探索 (Exploration)

1. ＊私は、自分の生き方については、あまり深く考えたことがない
2. 私は、自分の生き方について、いろいろと考えたことがある
3. 私は、小さい頃からもっていた価値観や信念に、疑いをもったことがある
4. 私は、自分の信念や価値観について深く考えたことがある
5. ＊私は、生き方とか価値観というものには、今まで関心をもったことがない
6. 私は、自分の人生について、真剣に考えてみたことがある
7. 私は、どんな生き方がよいのか、いろいろと悩んだことがある
8. 私は、自分の生き方に自信がもてなくなったことがある

傾倒 (Commitment)

1. ＊私は、自分の生き方について、あまり自信がない方である
2. 私は、はっきりとした人生の目標をもっている方である
3. ＊私には、「これが自分の人生だ」と自信をもって言えるものがないように思う
4. 私は、自分に合った生き方を見つけていると思う
5. 私は、自分にとって一番ふさわしい生き方をしていると思う
6. ＊私は、なりゆきまかせて人生を送っているような気がする
7. ＊私は、自分の生き方や信念は、まだ定まっていないと思う
8. ＊私は、どんな生き方をすればよいのか、まだよくわからない

C. 学業領域

探索 (Exploration)

1. 私は、自分の専攻を選ぶときに、いろいろと悩んだ方である
2. ＊私は、自分の専攻について、あまり深く考えたことがない
3. 私は、現在の専攻を選択する際に、自分の適性や能力について考えてみたことがある
4. ＊私は、あまりよく考えずに、現在の専攻を選んだように思う
5. 私は、現在の専攻の中で、自分にあったものを見つけようと努力してきた
6. 私は、自分が現在の専攻に適しているかどうか、深く考えたことがある
7. 私は、どのような専攻を選ぶかについて、あれこれと迷ったことがある
8. 私は、現在の専攻を選択するときに、誰かに相談したことがある

傾倒 (Commitment)

1. 私は、現在の専攻について勉強することが楽しい
2. 私は、この専攻を選択したことに満足している
3. 私は、自分なりに、現在の専攻に打ち込んでいると思う
4. 私は、現在の専攻を生かした職業につきたいと思う
5. 私は、これからも、現在の専攻を生かしていきたいと思う
6. 私は、現在の専攻に関して積極的に学んでいる方である
7. 私は、現在の専攻は、自分にあっていると思う
8. 私は、現在の専攻に関して、自分なりの意見をもっている方である

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

自我同一性地位を測定するために、「探索」および「傾倒」の程度を測定する「自我同一性地位尺度」（芳田ら，1989）を用いた（表2）。この尺度は、「職業」「価値」「学業」の3領域のそれぞれにおける、探索（Exploration）と傾倒（Comittment）の程度を、それぞれ8項目で測定するものであり、各項目がどの程度自分にあてはまるかを「① 非常によくあてはまる」「② かなりあてはまる」「③ あまりあてはまらない」「④ ほとんどあてはまらない」「⑤ 全くてはまらない」の5段階で自己評定させた。得点化にあたっては、「探索」および「傾倒」を表す方向から5点～1点を与えた。なお自我同一性地位の決定には、各領域ごとに「探索」「傾倒」の得点を組合わせ、それぞれの被検者を領域ごとに「達成」「モラトリウム」「早期完了」「拡散」の4地位に分類する。

2. 調査時期・調査対象

本調査は、1992年7月に兵庫県にあるO女子短期大学学生を対象に集団一斉法で行った。実際には、筆者自身が教示者となり、集団一斉実施法で被検者に調査用紙を配布し、所要時間約15分～20分で回答させ回収した。なお、調査票のフェイス・シートには、性別・学年・年齢の記入を求めた。被検者数は、表3に示すとおり1年生216名、2年生14名、計230名であった。

表3 調査対象の構成

	1年生	2年生	計
女子	216	14	230

Ⅲ. 結果と考察

1. 短期大学進学決定要因における比較

前述の5鍵項目について、各々の基準により2群に分類し、その度数を示したのが表4である。その中で（ア）入学までの経路については、①現役入学229名、②浪人入学が1名という構成になり、統計的处理にかからないため、分析からは除いた。

表4 短期大学進学決定要因の鍵項目ごとの出現度数

(N=230)	①	②
(ア) 入学までの経路	229	1
(イ) 進路決定について	217	13
(ウ) 短期大学の決定について	76	154
(エ) 合格した学科への満足度	146	84
(オ) 卒業後の進路	215	15

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

1-1. 進路決定について

表5-1 進路決定要因における進学決定要因についての平均とSDおよびt検定

	項 目	自己決定群 (N=217)	非自己決定群 (N=13)
短期大学進学決定要因	1. 校 風 や 伝 統	2.93 (1.06)	2.46 (1.45)
	2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ	3.09 (1.01)	2.92 (1.14)
	3. 学 問 の 水 準 の 高 さ	3.25 (1.02)	3.38 (1.08)
	4. 就 職 の 有 利 さ	3.26 (1.11)	3.15 (1.29)
	5. 通 学 の 便 利 さ	3.40 (1.33)	3.31 (1.26)
	6. 家 庭 の 経 済 的 理 由	2.31 (0.99)	2.23 (0.97)
	7. 合 格 の 見 込 み	3.59 (1.22)	3.69 (0.91)
	8. 自 分 の 適 性	3.34 (1.06)	2.77 (0.88)
	9. 教 師 の 助 言	2.41 (1.10)	2.69 (1.26)
	10. 父 母 の 希 望	2.52 (1.05)	3.08 (1.44)
	11. 互いに励みになるよい友がいる	2.63 (1.31)	2.46 (1.01)
	12. 学 校 の 雰 囲 気	3.49 (1.04)	3.00 (1.30)
	13. 将来の志望職業との一致度	2.79 (1.20)	2.77 (1.25)
	14. 学費・奨学金などの条件	1.88 (0.94)	2.38 (1.44)
	15. 自分の学力水準にあっている	3.28 (1.05)	3.31 (1.07)
	16. 周囲に進学する友人が多くいる	2.85 (1.32)	2.77 (1.37)
	17. 学科の内容に興味がある	3.42 (1.19)	2.69 (1.43)
	18. 校舎の美しさなどの外観	3.49 (1.13)	3.15 (1.23)
	19. 雑誌などでよく紹介される	2.38 (1.00)	1.85 (0.86)
	20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.74 (1.10)	2.23 (1.25)

< ; $p < .05$

進路決定について、自分の意志で決定した者を『自己決定群』、周囲の意見に従った者を『非自己決定群』に分け、短期大学進学決定要因20項目について、両群の平均の差の検定(t検定)を行った結果を表5-1に示した。この結果から、全体の94%は『自己決定群』であり、「3. 学問の水準の高さ」「7. 合格の見込み」「9. 教師の助言」「10. 父母の希望」「14. 学費・奨学金などの条件」「15. 自分の学力水準にあっている」の6項目以外はすべて『自己決定群』の方が数値的には高いが有意な差は認められなかった。「17. 学科の内容に興味がある」のみで『自己決定群』が5%水準で有意に『非自己決定群』よりも重視していた。このことから、進学するための進路を決定するにあたり、自分自身で決めた者は、その学科の内容にどの程度興味を持てるかということを非常に重視していると考えられる。また、周囲の意見に従って決定した者は、教師の助言や父母の希望、合格の見込みなど、どちらかという受動的な要因で決定していると考えられる。

1-2. 短期大学の決定について

最終的に短期大学を決定する要因について、四年制大学志望だったが結果的に短期大学に入学することになった者を『四年制大学志望群』、最初から短期大学志望だった者を『短期

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表 5 - 2 短期大学決定要因における進学決定要因についての平均と S D および t 検定

	項 目	四年制志望群 (N=76)		短大志望群 (N=154)	
短 期 大 学 進 学 決 定 要 因	1. 校 風 や 伝 統	2.87	(1.16)	2.92	(1.06)
	2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ	3.16	(1.10)	3.04	(0.98)
	3. 学 問 の 水 準 の 高 さ	3.29	(1.09)	3.25	(1.00)
	4. 就 職 の 有 利 さ	3.05	(1.22)	3.35	(1.05)
	5. 通 学 の 便 利 さ	2.93	(1.33)	<<<	3.62 (1.27)
	6. 家 庭 の 経 済 的 理 由	2.16	(0.97)	2.38	(0.99)
	7. 合 格 の 見 込 み	3.43	(1.26)	3.67	(1.16)
	8. 自 分 の 適 性	3.03	(1.10)	<<	3.44 (1.01)
	9. 教 師 の 助 言	2.28	(1.07)	2.51	(1.13)
	10. 父 母 の 希 望	2.45	(1.08)	2.60	(1.08)
	11. 互いに励みになるよい友がいる	2.54	(1.43)	2.66	(1.23)
	12. 学 校 の 雰 囲 気	3.28	(1.12)	3.56	(1.02)
	13. 将来の志望職業との一致度	2.70	(1.32)	2.83	(1.14)
	14. 学 費 ・ 奨 学 金 な の 条 件	1.86	(0.98)	1.94	(0.98)
	15. 自分の学力水準にあってい	2.96	(1.09)	<<<	3.44 (0.99)
	16. 周囲に進学する友人が多くい	2.59	(1.30)	<	2.97 (1.32)
	17. 学 科 の 内 容 に 興 味 が あ る	3.17	(1.32)	3.49	(1.11)
	18. 校 舎 の 美 し さ な の 外 観	3.14	(1.13)	<<	3.63 (1.11)
	19. 雑誌などでよく紹介される	2.05	(0.90)	<<	2.49 (1.01)
	20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.41	(1.18)	<<	2.86 (1.05)

< ; P<. 05, << ; P<. 01, <<< ; P<. 001

大学志望群』とに分類し、短期大学進学決定要因について平均の差の検定（t 検定）をした結果を表 5 - 2 に示した。その結果、「5. 通学の便利さ」「15. 自分の学力水準にあってい

る」が 0.1%で、「8. 自分の適性」「18. 校舎の美しさなどの外観」「19. 雑誌などでよく紹介されている」「20. 学園生活を送るのに適した街にある」では 1 %水準で、「16. 周囲に進学する友人が多くいる」が 5 %水準でそれぞれ有意に『短期大学志望群』の方が重視していた。つまり、最初から短期大学を志望している者は、自分の適性や学科の内容、自分の学力水準は勿論のこと、志望校の立地条件、情報誌から受けるイメージやファッション性を重視して志望校を決定しているのではないかと推察できる。また、数値的には、「2. 社会一般の評価の高さ」「3. 学問の水準の高さ」以外はすべて『短期大学志望群』の項目の方が高い。言い換えれば、『四年制大学志望群』の方が「2. 社会一般の評価の高さ」「3. 学問の水準の高さ」の数値が高いということは、一般的に社会的評価や学問水準は、四年制大学の方が高いのではないかという社会的な評価が反映されていると考えられる。

1 - 3. 合格した学科への満足度について

合格し入学した学科の満足度について満足している者を『満足群』、不満に思っている者を『不満群』とし、2 群間の平均の差の検定を行った結果が表 5 - 3 である。それによると、

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

表5-3 合格した学科への満足度における進学決定要因についての平均とSDおよびt検定

	項 目	満足群 (N=146)		不満群 (N=84)	
短期大学進学決定要因	1. 校 風 や 伝 統	2.99	(1.04)	2.75	(1.16)
	2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ	3.13	(0.99)	2.99	(1.07)
	3. 学 問 の 水 準 の 高 さ	3.32	(0.99)	3.15	(1.09)
	4. 就 職 の 有 利 さ	3.36	(1.00)	3.06	(1.28)
	5. 通 学 の 便 利 さ	3.55	(1.25)	3.11	(1.41)
	6. 家 庭 の 経 済 的 理 由	2.38	(0.95)	2.17	(1.03)
	7. 合 格 の 見 込 み	3.65	(1.13)	3.49	(1.31)
	8. 自 分 の 適 性	3.60	(0.89)	2.80	(1.14)
	9. 教 師 の 助 言	2.53	(1.11)	2.26	(1.11)
	10. 父 母 の 希 望	2.65	(1.08)	2.37	(1.08)
	11. 互いに励みになるよい友がいる	2.74	(1.31)	2.40	(1.25)
	12. 学 校 の 雰 囲 気	3.58	(0.99)	3.27	(1.16)
	13. 将来の志望職業との一致度	2.98	(1.08)	2.45	(1.32)
	14. 学 費 ・ 奨 学 金 な の 条 件	1.97	(0.95)	1.81	(1.02)
	15. 自分の学力水準にあっている	3.45	(1.01)	2.99	(1.05)
	16. 周囲に進学する友人が多くいる	3.02	(1.30)	2.54	(1.30)
	17. 学 科 の 内 容 に 興 味 が あ る	3.77	(0.94)	2.71	(1.33)
	18. 校 舎 の 美 し さ な の 外 観	3.58	(1.12)	3.27	(1.16)
	19. 雑誌などでよく紹介される	2.44	(0.94)	2.19	(1.06)
	20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.86	(1.04)	2.44	(1.20)

< ; P<. 05, << ; P<. 01, <<< ; P<. 001

短期大学進学決定要因全項目において『満足群』の方が高い得点を示した。中でも「8. 自分の適性」「17. 学科の内容に興味がある」「20. 学園生活を送るのに適した街にある」が0.1%水準で、「13. 将来の志望職業との一致度」「15. 自分の学力水準にあっている」「16. 周囲に進学する友人が多くいる」が1%水準で、そして「5. 通学の便利さ」「12. 学校の雰囲気」「18. 校舎の美しさなどの外観」が5%水準でそれぞれ有意に『満足群』の方がより重視していた。しかし、「1. 校風や伝統」「2. 社会的一般の評価の高さ」など社会的評価に関わる項目や「9. 教師の助言」「10. 父母の希望」など他者からの影響に関わる項目では有意差は認められなかった。このことから、現代の短期大学生の満足度からみて進学決定要因を左右するのは、校風や伝統、社会的評価の高さというよりも、むしろ自分の適性や将来自分が就きたい職業との一致度、キャンパスの美しさや学園生活をエンジョイできうる街に立地しているかなどが関連していると考えられる。

1-4. 卒業後の進路について

短期大学を卒業する時に、就職を希望している者を『就職群』、四年制大学への編入、他の短期大学や専門学校への進学を希望している者を『進学群』に分け、短期大学進学決定要因の項目について平均の差の検定（t検定）を行った結果が表5-4である。これによると、

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表 5 - 4 卒業後の進路における進学決定要因についての平均とSDおよびt検定

項 目		就職群 (N=215)	進学群 (N=15)
短期 大学 進学 決定 要因	1. 校 風 や 伝 統	2.89 (1.07)	3.00 (1.37)
	2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ	3.06 (1.02)	3.40 (0.95)
	3. 学 問 の 水 準 の 高 さ	3.25 (1.04)	3.40 (0.80)
	4. 就 職 の 有 利 さ	3.27 (1.12)	3.07 (1.06)
	5. 通 学 の 便 利 さ	3.45 (1.31)	2.60 (1.31)
	6. 家 庭 の 経 済 的 理 由	2.33 (1.00)	2.00 (0.82)
	7. 合 格 の 見 込 み	3.58 (1.21)	3.80 (1.11)
	8. 自 分 の 適 性	3.31 (1.03)	3.20 (1.38)
	9. 教 師 の 助 言	2.46 (1.12)	2.07 (1.00)
	10. 父 母 の 希 望	2.58 (1.09)	2.13 (0.88)
	11. 互いに励みになるよい友がいる	2.64 (1.29)	2.27 (1.44)
	12. 学 校 の 雰 囲 気	3.47 (1.03)	3.40 (1.40)
	13. 将来の志望職業との一致度	2.78 (1.17)	2.87 (1.63)
	14. 学 費 ・ 奨 学 金 な の 条 件	1.91 (0.99)	1.87 (0.88)
	15. 自分の学力水準にあってる	3.26 (1.05)	3.60 (0.95)
	16. 周囲に進学する友人が多くいる	2.89 (1.32)	2.20 (1.22)
	17. 学 科 の 内 容 に 興 味 が あ る	3.38 (1.20)	3.47 (1.36)
	18. 校 舎 の 美 し さ な の 外 観	3.49 (1.14)	3.20 (1.17)
	19. 雑誌などでよく紹介される	2.36 (1.01)	2.20 (0.83)
	20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.71 (1.13)	2.67 (0.94)

< ; P < . 05

『就職群』が全体の93%となり、大部分は就職希望であるが、「5.通学の便利さ」にのみ5%水準で有意に『就職群』の方が重視していた。

2. 自我同一性における比較

2-1. 進路決定要因について

表 6 - 1 進路決定要因における自我同一性についての平均とSDおよびt検定

			自己決定群 (N=217)	非自己決定群 (N=13)
自 我 同 一 性	職 業 領 域	探 索	28.22 (6.08)	29.31 (4.95)
		傾 倒	22.12 (6.01)	24.23 (6.25)
	価 値 領 域	探 索	25.92 (5.85)	27.46 (5.49)
		傾 倒	19.74 (5.58)	22.15 (4.02)
	学 業 領 域	探 索	25.36 (5.43)	23.38 (4.52)
		傾 倒	24.41 (6.79)	22.15 (7.71)

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

表6-1は、進路決定要因における『自己決定群』と『非自己決定群』で自我同一性3領域についての平均とSDおよび平均の差の検定（t検定）を行った結果であるが、どの領域においても有意な差は認められなかった。

2-2. 短期大学決定要因について

表6-2 短期大学決定要因における自我同一性についての平均とSDおよびt検定

				四年制志望群 (N=76)		短大志望群 (N=154)
自我同一性	職業領域	探索		28.53 (5.57)		28.16 (6.23)
		傾倒		22.64 (6.17)		22.03 (5.97)
	価値領域	探索		27.09 (5.47)	>	25.47 (5.94)
		傾倒		19.47 (5.55)		20.08 (5.51)
	学業領域	探索		24.18 (5.88)	<	25.78 (5.07)
		傾倒		22.97 (7.41)	<	24.92 (6.48)

<; p<. 05,

短期大学を決定した者を『四年制大学志望群』と『短期大学志望群』とに分け、自我同一性3領域について「探索」と「傾倒」での平均の差の検定を行った結果が表6-2である。価値領域の「探索」において『四年制大学志望群』が、学業領域の「探索」と「傾倒」においては、『短期大学志望群』がそれぞれ5%水準において有意に高い結果を得た。このことから、四年制大学を志望していた者は、自分の生き方や価値観について悩み、その方向性を探し求めているということが言えるのではないだろうか。また、学業において「探索」も「傾倒」も『短期大学志望群』が有意に高いことから、最初から短期大学へ進学しようと考えている者は、自分にあった学科や専攻を探索し、その目標に向かって積極的に取り組んでいるという結果でもあるように思われる。一般的に短期大学は、四年制大学志望の学生にとっては“すべり止め”的存在傾向として受け止められている世間の状況からも伺い知れる結果と考えられる。

2-3. 合格した学科への満足度について

合格した学科について『満足群』と『不満群』の2群間の平均の差の検定（t検定）を行った結果が表6-3である。職業領域においては両群とも有意差は認められなかったが、価値領域の「傾倒」において5%水準で、学業領域の「探索」においては1%水準で、学業領域の「傾倒」では0.1%水準で有意に『満足群』の方が高かった。つまり、合格した学科に対して満足している方が、自分の生き方により積極的であり、自分のやりたいことや学びたいことに対して前向きに考え、どのように取り組むべきかということにコミットメントしていると考えられる。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表 6 - 3 合格した学科への満足度における自我同一性についての平均とSDおよびt検定

			満足群 (N=146)	不満群 (N=84)
自我同一性	職業領域	探索	28.03 (5.79)	28.73 (6.39)
		傾倒	22.29 (5.86)	22.13 (6.35)
	価値領域	探索	25.80 (5.56)	26.37 (6.29)
		傾倒	20.48 (5.30) >	18.83 (5.76)
	学業領域	探索	26.09 (4.94) >>	23.80 (5.83)
		傾倒	26.97 (5.05) >>>	19.61 (7.09)

< ; P. 05, << ; P<. 01, <<< ; P<. 001

2 - 4. 卒業後の進路について

短期大学の卒業後の進路について、『就職群』と『進学群』の2群間で自我同一性について平均の差の検定（t検定）を行った結果が表6-4である。この結果から、職業領域の「傾倒」にのみ5%水準で有意に『進学群』の方が高い結果を得た。つまり、卒業後さらに進学しようと考えているものは、将来自分が就きたい職業が自己の中に確立されており、その希望を満たすために進学しようとするのではないかと言える。

表 6 - 4 卒業後の進路における自我同一性についての平均とSDおよびt検定

			就職群 (N=215)	進学群 (N=15)
自我同一性	職業領域	探索	28.27 (6.08)	28.47 (5.06)
		傾倒	22.02 (5.94) <	25.33 (6.73)
	価値領域	探索	25.88 (5.93)	27.87 (3.90)
		傾倒	19.83 (5.62)	20.60 (4.00)
	学業領域	探索	25.27 (5.38)	25.07 (5.67)
		傾倒	24.47 (6.77)	21.60 (7.63)

< ; P<. 05

3. 短期大学進学決定要因と自我同一性地位の決定要因である「探索」及び「傾倒」との関係について

自我同一性地位の決定要因である「探索」と「傾倒」がそれぞれの短期大学進学決定要因とどのように関連しているのかを検討するために、自我同一性地位の6尺度と短期大学進学決定要因20尺度との相関をピアソンの相関係数を用いて算出し、表7に示した。

職業領域では「探索」が「1. 校風や伝統」「12. 学校の雰囲気」「14. 学費・奨学金など

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

表7 自我同一性における「探索」と「傾倒」と短期大学進学決定要因との関係 (N=230)

短期大学進学決定要因	自我同一性					
	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
1. 校風や伝統	.1298*	.0871	.1139	.0771	.2938**	.1834**
2. 社会一般の評価の高さ	.0776	.0652	.0137	.0171	.1877**	.1084
3. 学問の水準の高さ	.0844	.1001	.0707	.0378	.1348*	.1020
4. 就職の有利さ	.1586	.1386*	.0696	.0514	.3194**	.1541*
5. 通学の便利さ	.1154	.0572	.0499	.1466*	.1612*	.1705**
6. 家庭の経済的理由	.1251	.0673	.0606	.0203	.1665*	.1490*
7. 合格の見込み	.0785	.0959	.1053	.0560	.1346*	.1151
8. 自分の適性	.0995	.0350	.0768	.2117**	.4383**	.3784**
9. 教師の助言	.0854	-.0382	.1162*	.1516*	.2273**	.1626*
10. 父母の希望	.1273	.0460	.0438	.1126	.1804**	.2095**
11. 互いに励みになるよい友がいる	.0938	.0314	.0073	.1521	.0931	.0461
12. 学校の雰囲気	.1290*	-.0008	.1045	-.0066	.2275**	.1237
13. 将来の志望職業との一致度	.2352**	.2323**	.2040**	.1962**	.3444**	.3802**
14. 学費・奨学金などの条件	.1575*	.0249	.0579	.1496*	.2277**	.2428**
15. 自分の学力水準にあっている	.0248	.0419	.1518*	.0314	.1744**	.0915
16. 周囲に進学する友人が多くいる	-.0157	.0367	.0784	.1133	.0080	.0723
17. 学科の内容に興味がある	.1715**	.1514*	.1217	.1165	.4811**	.5628**
18. 校舎の美しさなどの外観	.0180	-.0614	.0751	-.0123	.1276	.0755
19. 雑誌などでよく紹介される	.0068	-.0785	.0526	.0803	.2100**	.0291
20. 学園生活を送るのに適した街にある	.0155	-.0986	.0843	.0913	.2052**	.1131

* ; $p < .05$, ** ; $p < .01$

の条件」とは5%水準で有意な正の相関を示した他、「13. 将来の志望職業との一致度」や「17. 学科の内容に興味がある」とは1%水準で有意な正の相関を示した。この結果からみると、将来の職業について迷いや探索の経験があるほど、学校の雰囲気やカリキュラムの内容、将来つきたいと思っている職業との一致度などを重視していることが理解できる。職業領域の「傾倒」では「4. 就職の有利さ」「17. 学科の内容に興味がある」が5%水準で、「13. 将来の希望職業との一致度」が1%水準でともに有意な正の相関を示した。このことから、将来の職業に対して積極的に傾倒しているほど、就職の有利さや志望職業などに学科の内容がどれほど近いかを基準に進学を決定していると考えられる。

価値領域についてみると「探索」では「13. 将来の志望職業との一致度」と1%水準で有意な正の相関を示し、「9. 教師の助言」「15. 自分の学力水準にあっている」とは5%水準で有意な正の相関を示した。自分の生き方や価値観に関して迷いや探索を経験しているほど、進学を決定するのに教師からのアドバイスを参考に自分の学力にみあった所を選択しているといえよう。また価値領域の「傾倒」においては、「8. 自分の適性」「13. 将来の志望職業との一致度」が1%水準で、また「5. 通学の便利さ」「9. 教師の助言」「11. 互いに励みになるよい友がいる」「14. 学費・奨学金などの条件」では5%水準で有意な正の相関を示した。つまり、自分の生き方や人生の目標が定まっているほど、進学する学科の内容や社会的評価というようなものより、自分の適性や友人関係によって決定される。

学業領域において「探索」では、「11. 互いに励みになるよい友がいる」「16. 周囲に進学する友人が多くいる」「18. 校舎の美しさなどの外観」の3項目を除いて1%水準または5%水準で有意な正の関係を示している。特に、「8. 自分の適性」や「17. 学科の内容に興味がある」で高い相関を示している。この結果から、自分の専攻や適性などに悩み探索した経験のあるものほど父母や教師のアドバイス、雑誌などの情報を参考にしながら、ただ“友達が進学するから私もとりあえず進学する”とか“キャンパスが美しいから”などの表面的動機ではなく、校風や伝統、社会的評価の高さや自分の適性などいろいろな要因から進学を決定していると言える。中でも、進学した学科で学ぶことが本当に自分にあっているのかということが重要なポイントになっているといえよう。「傾倒」は「1. 校風や伝統」「5. 通学の便利さ」「8. 自分の適性」「10. 父母の希望」「13. 将来の志望職業との一致度」「14. 学費・奨学金などの条件」「17. 学科の内容に興味がある」が1%水準で、「4. 就職の有利さ」「6. 家庭の経済的理由」「9. 教師の助言」が5%水準でそれぞれ有意な正の相関を示した。つまり、現在自分の選択した学科や専攻に積極的な態度で取り組んでいる程、進学を決定した要因として合格の見込みや社会的評価の高さ、それにキャンパスの外観などの所謂“ハード”にこだわっているのではなく、学科の内容や校風、就職状況などの所謂“ソフト”を重視し、それを踏まえて自分の適性に照らし合わせて進学を決定していると考えられるのではないだろうか。全体的に短期大学進学決定要因と自我同一性との関係をみると、「13. 将来の志望職業との一致度」は、3領域すべてにおいて高い相関を示した。短期大学を志望する学生において卒業後の“就職”というのは進路を決定するうえで非常に大きなウェイトを占めており、それがしいては自分の生き方や価値観にも影響を及ぼしているとも考えられる。

4. 短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関係について

自我同一性地位の4類型、すなわち「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」の各地位において短期大学進学決定要因がどの程度重視されているのかを検討した。

表8 自我同一性地位尺度の平均とSD

下 位 尺 度		女 子
職 業 領 域	探 索	28.28 (6.02)
	傾 倒	22.23 (6.05)
価 値 領 域	探 索	26.01 (5.84)
	傾 倒	19.88 (5.53)
学 業 領 域	探 索	25.25 (5.40)
	傾 倒	24.28 (6.86)

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

自我同一性地位の決定にあたっては、表8に示した「探索」および「傾倒」尺度の平均値を基準にし、各個人の得点に基づいて、4つの自我同一性地位のいずれかに分類した。すなわち、「探索」および「傾倒」がともに平均値以上の群を「達成」とし、「探索」は平均値以上であるのに対して「傾倒」が平均値未満の群を「モラトリアム」とした。また、「探索」が平均値未満であるのに対して「傾倒」が平均値以上の群を「早期完了」とし、「探索」および「傾倒」がいずれも平均値未満の群を「拡散」とした。なお、それぞれの領域における各地位の出現度数を表9に示した。

表9 各領域ごとの同一性地位の度数（女子、N=230）

	達 成	モラトリアム	早期完了	拡 散
職業領域	74	43	30	83
価値領域	64	42	54	70
学業領域	80	33	45	72

次に、自我同一性の各地位において重視される短期大学進学決定要因を検討するために、それぞれの自我同一性地位における短期大学進学決定要因20尺度の得点を、一元配置の分散分析によって検定した結果を表10-1、表10-2、表10-3に示した。

表10-1 自我同一性地位（職業領域）と短期大学進学決定要因との関係（N=230）

職 業 領 域	自 我 同 一 性 地 位				分散分析 F (3,226)
	達 成 (N=74)	モラトリアム (N=43)	早期完了 (N=30)	拡 散 (N=83)	
1. 校 風 や 伝 統	3.09(1.10)	2.93(1.02)	2.80(0.98)	2.75(1.13)	1.421
2. 社 会 一 般 の 評 価 の 高 さ	3.09(1.02)	2.98(1.05)	3.40(0.80)	3.00(1.06)	1.298
3. 学 問 の 水 準 の 高 さ	3.31(1.08)	3.21(1.02)	3.50(0.99)	3.16(0.98)	0.917
4. 就 職 の 有 利 さ	3.53(1.09)	3.35(0.99)	3.10(1.08)	3.01(1.16)	3.133*
5. 通 学 の 便 利 さ	3.57(1.34)	3.60(1.31)	3.00(1.24)	3.27(1.32)	1.932
6. 家 庭 の 経 済 的 理 由	2.36(1.13)	2.51(0.97)	2.07(0.85)	2.23(0.87)	1.465
7. 合 格 の 見 込 み	3.59(1.20)	3.91(1.24)	3.57(1.02)	3.43(1.21)	1.475
8. 自 分 の 適 性	3.36(1.11)	3.60(0.92)	3.10(0.91)	3.17(1.10)	2.073
9. 教 師 の 助 言	2.43(1.20)	2.65(1.08)	2.30(0.97)	2.36(1.09)	0.798
10. 父 母 の 希 望	2.64(1.17)	2.65(0.99)	2.67(1.16)	2.37(1.00)	1.120
11. 互いに励みになるよい友がいる	2.70(1.36)	2.91(1.25)	2.47(1.26)	2.45(1.24)	1.437
12. 学 校 の 雰 囲 気	3.53(1.13)	3.77(0.96)	3.23(0.92)	3.34(1.06)	2.146
13. 将来の志望職業との一致度	3.16(1.35)	2.91(0.98)	2.83(1.21)	2.37(1.03)	6.201**
14. 学費・奨学金などの条件	1.89(0.94)	2.30(1.13)	1.70(0.82)	1.80(0.93)	3.219*
15. 自分の学力水準にあっている	3.28(1.10)	3.37(1.06)	3.27(1.00)	3.23(1.01)	0.175
16. 周囲に進学する友人が多くいる	2.99(1.34)	2.67(1.39)	2.63(1.20)	2.88(1.29)	0.790
17. 学科の内容に興味がある	3.61(1.32)	3.51(1.11)	3.50(1.12)	3.07(1.13)	2.982*
18. 校舎の美しさなどの外観	3.46(1.23)	3.77(1.05)	3.10(1.08)	3.46(1.08)	2.051
19. 雑誌などでよく紹介される	2.22(0.95)	2.67(0.98)	2.13(0.81)	2.37(1.06)	2.491
20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.64(1.15)	3.14(1.09)	2.13(0.85)	2.76(1.09)	5.188**

* ; $p < .05$, ** ; $p < .01$

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表10-2 自我同一性地位（価値領域）と短期大学進学決定要因との関係（N=230）

価値領域	自我同一性地位				分散分析 F(3,226)
	達成 (N=64)	モラトリアム (N=42)	早期完了 (N=54)	拡散 (N=70)	
1. 校風や伝統	3.05(1.01)	3.07(1.12)	2.74(1.02)	2.79(1.17)	1.368
2. 社会一般の評価の高さ	3.23(1.06)	2.98(1.08)	2.89(0.96)	3.14(0.98)	1.347
3. 学問の水準の高さ	3.39(1.14)	3.29(1.10)	3.13(0.90)	3.23(0.94)	0.660
4. 就職の有利さ	3.36(1.19)	3.33(1.17)	3.17(0.98)	3.17(1.11)	0.492
5. 通学の便利さ	3.61(1.32)	3.33(1.25)	3.50(1.18)	3.14(1.45)	1.539
6. 家庭の経済的理由	2.44(1.09)	2.50(0.96)	2.19(0.80)	2.16(1.01)	1.724
7. 合格の見込み	3.73(1.23)	3.76(1.31)	3.56(0.90)	3.39(1.28)	1.285
8. 自分の適性	3.44(0.93)	3.33(1.25)	3.39(0.93)	3.10(1.11)	1.327
9. 教師の助言	2.72(1.18)	2.45(1.18)	2.41(1.01)	2.17(1.03)	2.744*
10. 父母の希望	2.77(1.10)	2.48(0.96)	2.39(1.01)	2.51(1.17)	1.328
11. 互いに励みになるよい友がいる	2.94(1.24)	2.64(1.38)	2.46(1.10)	2.43(1.39)	2.067
12. 学校の雰囲気	3.61(1.11)	3.67(0.89)	3.19(1.06)	3.43(1.06)	2.202
13. 将来の志望職業との一致度	3.16(1.23)	2.90(1.06)	2.69(1.21)	2.46(1.14)	4.180**
14. 学費・奨学金などの条件	2.08(1.02)	1.95(1.07)	2.00(0.88)	1.66(0.91)	2.390
15. 自分の学力水準にあっている	3.33(1.15)	3.40(1.00)	3.26(0.91)	3.17(1.07)	0.496
16. 周囲に進学する友人が多くいる	3.17(1.33)	2.81(1.24)	2.69(1.20)	2.69(1.40)	1.929
17. 学科の内容に興味がある	3.53(1.19)	3.48(1.31)	3.41(1.03)	3.17(1.28)	1.116
18. 校舎の美しさなどの外観	3.45(1.24)	3.60(1.11)	3.37(1.08)	3.49(1.11)	0.311
19. 雑誌などでよく紹介される	2.41(0.91)	2.43(1.07)	2.41(0.81)	2.20(1.13)	0.738
20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.75(1.08)	3.00(1.23)	2.74(0.93)	2.47(1.17)	2.065

* ; $p < .05$, ** ; $p < .01$

表10-3 自我同一性地位（学業領域）と短期大学進学決定要因との関係（N=230）

学業領域	自我同一性地位				分散分析 F(3,226)
	達成 (N=80)	モラトリアム (N=33)	早期完了 (N=45)	拡散 (N=72)	
1. 校風や伝統	3.23(1.02)	2.82(1.11)	2.67(1.03)	2.72(1.11)	3.862*
2. 社会一般の評価の高さ	3.26(0.90)	3.15(1.02)	3.04(0.97)	2.86(1.13)	2.039
3. 学問の水準の高さ	3.26(0.95)	3.48(0.82)	3.38(1.14)	3.08(1.09)	1.438
4. 就職の有利さ	3.46(1.00)	3.79(0.81)	3.16(1.15)	2.83(1.18)	7.513**
5. 通学の便利さ	3.59(1.29)	3.64(1.10)	3.69(1.19)	2.88(1.40)	5.620**
6. 家庭の経済的理由	2.59(0.98)	2.24(0.92)	2.24(1.04)	2.06(0.91)	3.937**
7. 合格の見込み	3.65(1.06)	3.85(0.99)	3.67(1.19)	3.36(1.39)	1.513
8. 自分の適性	3.71(0.79)	3.52(1.02)	3.24(1.14)	2.79(1.07)	11.353**
9. 教師の助言	2.66(1.11)	2.55(0.99)	2.42(1.11)	2.13(1.12)	3.142*
10. 父母の希望	2.80(1.04)	2.52(0.99)	2.51(1.13)	2.31(1.09)	2.710*
11. 互いに励みになるよい友がいる	2.83(1.32)	2.55(1.26)	2.36(1.21)	2.58(1.31)	1.340
12. 学校の雰囲気	3.68(0.93)	3.64(1.10)	3.38(1.04)	3.21(1.13)	2.891*
13. 将来の志望職業との一致度	3.20(1.04)	2.73(1.31)	2.98(1.18)	2.24(1.11)	9.503**
14. 学費・奨学金などの条件	2.21(1.00)	1.91(1.16)	1.96(0.89)	1.54(0.78)	6.348**
15. 自分の学力水準にあっている	3.41(0.96)	3.33(1.01)	3.31(1.13)	3.08(1.08)	1.314
16. 周囲に進学する友人が多くいる	2.86(1.29)	2.58(1.35)	3.04(1.30)	2.82(1.34)	0.805
17. 学科の内容に興味がある	4.11(0.79)	3.18(1.27)	3.40(1.06)	2.65(1.19)	24.222**
18. 校舎の美しさなどの外観	3.64(1.09)	3.52(1.05)	3.47(1.13)	3.26(1.21)	1.377
19. 雑誌などでよく紹介される	2.41(0.97)	2.58(0.99)	2.29(0.96)	2.21(1.03)	1.210
20. 学園生活を送るのに適した街にある	2.88(1.08)	2.91(1.05)	2.62(1.12)	2.49(1.14)	2.002

* ; $p < .05$, ** ; $p < .01$

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

職業領域では、「4. 就職の有利さ」「13. 将来の志望職業との一致度」「14. 学費・奨学金などの条件」「17. 学科の内容に興味がある」「20. 学園生活を送るのに適した街にある」の5項目において、地位間の有意差が認められた。それぞれの自我同一性地位ごとに平均を比較すると、「4. 就職の有利さ」「13. 将来の志望職業との一致度」「17. 学科の内容に興味がある」で「達成」地位の平均が最も高く、「拡散」地位が最も低かった。また、「14. 学費・奨学金などの条件」「20. 学園生活を送るのに適した街にある」では、「モラトリアム」地位が最も高く、「早期完了」地位が一番低かった。従って、職業領域においては、「探索」も「傾倒」もあるものは、進学を決定するポイントとして将来自分が就きたい職業にどのくらい志望学科の内容が関連しているのか、また実際の就職状況とはどうなのかということを考慮し、進学を決定しているものと考えられる。つまり、「探索」と「傾倒」の両方があってこそ将来の職業に対して積極的な姿勢で取り組むことができると言えよう。

価値領域においては、「9. 教師の助言」と「13. 将来の志望職業との一致度」の2項目で地位間の有意差が認められた。各地位ごとに平均をみると、「達成」地位の平均が最も高く、「拡散」地位の平均が最も低かった。つまり、自分の生き方や価値観において「探索」も「傾倒」も経験しているものは、まず将来の生き方を考え、人生の先輩でもある教師の助言を参考にしながら生き方や価値観にも通じるであろう職業をも考え、志望校を決定しているのではないだろうか。

学業領域においては、「1. 校風や伝統」「4. 就職の有利さ」「5. 通学の便利さ」「6. 家庭の経済的理由」「8. 自分の適性」「9. 教師の助言」「10. 父母の希望」「12. 学校の雰囲気」「13. 将来の志望職業との一致度」「14. 学費・奨学金などの条件」「17. 学科の内容に興味がある」において、地位間の有意差が認められた。それぞれの自我同一性地位ごとに平均を比較すると、まず「6. 家庭の経済的理由」「8. 自分の適性」「9. 教師の助言」「10. 父母の希望」「12. 学校の雰囲気」「13. 将来の志望職業との一致度」「17. 学科の内容に興味がある」において「達成」地位の平均が最も高く、「拡散」地位の平均が最も低い値を示し、「1. 校風や伝統」では、「達成」地位の平均が最も高く、「早期完了」地位の平均が最も低い値を示した。また、「4. 就職の有利さ」は「モラトリアム」地位の平均が最も高く、「拡散」地位の平均が最も低かった。「5. 通学の便利さ」においても「早期完了」地位の平均が一番高く、「拡散」地位の平均が最も低かった。すなわち、自分の専攻や学科について積極的に考え、取り組んでいるものは、自分の進みたい学科の内容や自分の適性という自己の本質的な要因を中心に多方向から進学を捉え、総合的に判断しているものと考えられる。逆に、「探索」もしくは「傾倒」が一方でもなければ、進学を自己の問題として捉えにくく、表面的な要因が進学決定に左右する可能性があるのではないだろうか。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

5. 短期大学進学決定要因の構造について

表11 短期大学進学決定要因の因子分析結果（N=230）

No.	項 目 内 容	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	h^2
18.	校舎の美しさなどの外観	.7310	-.2058	-.1918	-.1059	-.1579	.6496
20.	学園生活を送るのに適した街にある	.6534	.0020	-.1589	-.0389	-.2900	.5378
19.	雑誌などでよく紹介される	.6349	.1044	-.1918	.2256	-.0490	.5041
11.	互いに励みになる友がいる	.5842	.1533	.0666	.2948	-.0189	.4565
16.	周囲に進学する友人が多くいる	.5537	.2981	.2678	.2137	.1726	.5426
12.	学 校 の 雰 囲 気	.5337	-.1954	-.4523	.0162	-.2879	.6108
15.	自分の学力水準にあっていて	.1288	.7004	.0038	-.2711	-.2244	.6310
7.	合 格 の 見 込 み	-.1002	.6449	-.0047	.0872	-.0874	.4412
9.	教 師 の 助 言	.2106	.4792	-.1546	.4399	-.0282	.4869
2.	社会一般の評価の高さ	.0259	.0133	-.8280	.1533	.0144	.7104
3.	学 問 の 水 準 の 高 さ	-.0199	.4094	-.7047	.0189	.0347	.7182
1.	校 風 や 伝 統	.2692	-.0894	-.6367	.1001	-.2098	.5400
4.	就 職 の 有 利 さ	.1966	-.0222	-.4457	.2735	-.3941	.4679
6.	家庭の経済的理由	.0308	.0347	-.0590	.7844	-.0447	.6230
14.	学費・奨学金などの条件	.0495	-.0747	-.0958	.7570	-.1769	.6216
10.	父 母 の 希 望	.1834	.0380	-.2729	.3876	-.1845	.2983
17.	学科の内容に興味がある	.0274	.1258	.0558	-.0101	.7890	.6423
13.	将来の志望職業との一致度	.1122	.0719	-.1278	.2455	-.7127	.6023
8.	自 分 の 適 性	.1541	.3348	-.2352	.1061	-.6130	.5782
5.	通 学 の 便 利 さ	.2265	-.0960	-.0391	.2659	-.2992	.2222
	寄 与 率 (%)	13.03	8.33	12.03	10.28	10.74	54.41

短期大学進学決定要因の構造について検討するために短期大学進学決定要因の20項目について、因子分析（主因子法）を行い、5因子を抽出後バリマックス回転を施した結果を表11に示した。それぞれの因子において因子負荷量の項目が.35以上の項目を太線で囲った。また、2つの因子にまたがって.35以上の因子負荷量を示している場合は、より高い因子負荷量の因子に分類した。それによると、第Ⅰ因子に「18. 校舎の美しさや外観」「20. 学園生活を送るのに適した街にある」「19. 雑誌などでよく紹介される」などが高い負荷を示し、『大学の表層的価値』に関する因子であると解釈できる。第Ⅱ因子には、「15. 自分の学力水準にあっていて」「7. 合格の見込み」「9. 教師の助言」が負荷し、これは『学力水準』に関する因子と考えられる。第Ⅲ因子には、「2. 社会一般の評価の高さ」「3. 学問の水準の高さ」「1. 校風や伝統」「4. 就職の有利さ」が高く負荷し、『短期大学の社会的評価』に関する因子と言える。また、第Ⅳ因子には、「6. 家庭の経済的理由」「14. 学費・奨学金などの条件」「10. 父母の希望」からなる『家庭的条件』の因子であり、第Ⅴ因子は、「17. 学科の内容に興味がある」「13. 将来の志望職業との一致度」「8. 自分の適性」からなる『自分の適性』

短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について

に関する因子と解釈できた。

IV. まとめ

本研究において、短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について検討した。

まず、短期大学への進学を決定する要因として、その関連要因からみると、短期大学への進学で重視するものは、自分の適性に合っているか、学科の内容に興味を持てるのか、楽しく過ごせるのかなどが関連しており、特に最初から短期大学への進学を希望し、なおかつ入学した学科に満足している者にその傾向が顕著に現れている。

自我同一性における「探索」及び「傾倒」と短期大学進学決定要因との関連では、将来の志望職業と自我同一性の3領域とは、どの領域においても関連性が高かった。つまり、短期大学を決定するうえで卒業後の就職が希望の職業に就けるか否かの可能性は、自我同一性形成にとって重要なポイントになっていると考えられる。

自我同一性地位と短期大学進学決定要因との関連については、探索あるいは危機を経験した後自己投入できる対象を見出した「達成」地位が、短期大学進学決定要因の多くの項目について他の地位よりも重視していた。特に、学業領域において自分の適性や学科の内容で「探索」も「傾倒」もある「達成」地位が重視していたことから、「達成」地位において進学を決定する要因としては、表面的な要因が進学決定を左右するのではなく、自分は何がやりたいのか、選択した学科や専攻は自分に適しているのか、選択した学科や専攻で学んだことが将来の希望職業につながるのかなど自己の本質的な要因によって学科を選択しており、自分の適性をつまみ“自己”を認識し進学要因を決定できるということは、自我同一性を確立していると言えるのではないだろうか。

以上のことから、短期大学進学を決定する要因として次の3点が挙げられる。

- ①学科の内容や自分の適性
- ②志望した学科内容と将来の希望職業との一致度
- ③学生生活がお洒落にしかも快適に過ごせるかという“ファッション性”

である。

つまり、現代の短期大学進学を決定する要因としては、従来の校風や伝統、社会的評価の高さや経済的な条件というよりは、むしろキャンパスの美しさ等の“ハード”としての“ファッション性”や自分の適性や学科の内容及び友人関係等の“ソフト”としての“ファッション性”を重視しているのではないだろうか。しかし本研究は、一短期大学での調査を基に論じたものであり、必ずしも一般的に当てはまらない部分もあり、複数の短期大学で調査を実施すればもっと顕著なことが言えるであろう。しかし、短期大学に進学してくる学生が、どのような要因で短期大学を選択決定するのか、また自我同一性形成がどのように関与しているのかというひとつの指標になりうるであろう。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

〔引用・参考文献〕

- Erikson, E. H. 1959 Identity and the life cycle. Psychological Issues.
 （小此木啓吾 訳編 1973 アイデンティティとライフサイクル 誠信書房）
- 渕上克義 1984a 進学志望の意志決定過程に関する研究, 教育心理学研究, 32, 59-63.
- 渕上克義 1984b 大学進学決定におよぼす要因ならびにその人的影響源に関する研究, 教育心理学研究, 32, 228-232.
- 三川俊樹 1985 大学への進学決定に関する研究, 進路指導研究, 6, 14-19.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1989 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅱ）
 -自我同一性地位および性役割の測定-, 追手門学院大学文学部紀要, 23, 19-36.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1990 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅲ）
 -性役割および自我同一性と価値観の関連-, 追手門学院大学文学部紀要, 24, 23-37.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1991 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅴ）
 -性役割および自我同一性と役割受容・充実感の関連-, 追手門学院大学文学部紀要, 25, 51-67.
- 下山晴彦 1984 ある高校生の進路決定過程の縦断的研究, 教育心理学研究, 32, 206-211.